

平成 23 年 3 月修了
修士（工学）学位論文

我が国の建設産業における専門工事企業の
機能と期待すべき役割に関する研究

The Study of Function and Prospective Roles of Specialized
Construction Work Contractors

高知工科大学大学院 社会システム工学科

学籍番号 1135090

杉原 栄作

Eisaku Sugihara

第1章. 序 論

1.1. 要 旨（研究の目的と背景）

我が国の“専門工事企業”は、1工種もしくは数工種の直接的施工の役割を担って現在に至っている。専門工事企業が技能や施工力を有する企業形態となった。1950年代の労働者提供の「親方方式」や大工等の職人を集めて仕事をする「棟梁方式」など個性的な“組”組織であった。1941年に勃発した太平洋戦争は、4年後に終戦となり我が国は、全面、焼け野原となった。

官主導で施行された国の再建を目指す公共施設の復旧は、目を見張るものであり専門工事企業は、総合工事企業（元請負企業）の指導のもとで労務提供を主体に大きく貢献した。

専門工事企業に従事している現場担当者や労働者は技能と経験を生かし、大きく荒廃した祖国の再建に没頭した。官の適切で迅速な指導体制により、総合工事企業や専門工事企業の大きなエネルギーが世界でも類を見ない急速な戦後復興を成し遂げた。

1980年代初頭の“建設冬の時代”を除き建設投資額は年10%程度の伸び率でバブル時代へ突き進んでいった。破局はその後バブル崩壊という形で建設産業を襲い、専門工事企業も当然その煽りを受けた。専門工事企業として存続するためには1工種から多工種の企業へ変化していくなどの方策を取らなければ、経営を揺るがす可能性が出てきた。

本研究では、日本の専門工事企業が抱える将来に対しての問題点を明らかにし、その実地検証結果を基に我が国の専門工事企業の発展をめざす方策を検討し提案するものである。

従来から専門工事企業が保持している“施工技能”に加え総合工事企業元請負企業が失いつつある“基礎技術力”や“総合管理能力”も担い統合した“総合専門工事企業”を確立するため方策を提案する。このような“地方型総合専門工事業”制度を確立させることは、将来的には、建設産業の体系化の基盤となるものであり、我が国が、国際建設市場での競争力の展開へ繋がることも充分考えられる。

専門工事業者が、時代と共に変遷してきた建設産業の狭間で、将来的に根付く経営基盤を保持できる業態の構造を検証するのが研究目的である。